

<金標準先物、雇用統計を受けても 6479 円以上は戻り売りの域・・・>



(出所：オアシス)

8月の雇用統計で非農業部門就業者数が事前予想を大きく下回る23.5万人増となった。先週にパウエルFRB議長がFRB年次シンポジウムで7月のFOMCで「経済が広範囲に回復すれば2021年中に資産購入ペースを減速させ始めることが適切だ」と明言し、雇用の最大化と物価の安定という2つの目標に「さらなる著しい進展」があった場合と言及している。そのため年内のテーパリング開始の後退からNY金は1834.5ドルまで高値を追い、金標準先物も6460円まで高値を試している。

ただ債券市場で10年物国債金利は上昇するなど、年内のテーパリングの議論は避けて通る事が出来ないため、金利は今後も1.3%を超える動きが続く可能性は高く、金標準先物の戻りを抑える要因となるため、6500円を超える展開は難しく7月の高値6479円以上は戻り売りの値動きに注意が必要と予想される。(2021年9月5日記載)

<テクニカル>

金標準先物の日足をMACDとRCIで見ると、MACDではMACDとシグナルが上昇を維持しており、明確な売りサインは発生していない。ただMACDとシグナルの乖離を示すヒストグラムの伸びが欠けており、高値が止まる可能性が高い。またRCIでは短期の高値維持で継続を示す動きであるが、長期が上昇し短期とクロスする可能性が高まっている。また200日移動平均線との乖離も拡大しており、買われ過ぎから6390円を下回ると再度6300円割れに注意したい。